

もの言う牧師のエッセー 第24話

「空飛ぶ自動車」

米マサチューセッツ州の航空機ベンチャー、テラフジア社は4月初め、公道も合法的に走行できる陸空両用航空機「トランジション (Transition)」の試作機で試験飛行を成功させた。早ければ年内の発売を目指すという。

気になる価格は、一般販売に先駆けた特別販売の価格が1台27万9000ドルで、“小型機の代表”と言われる「セスナ172型」の小売価格が30万ドル弱であることなどを勘案すると妥当な値段なのか、すでに約100件の予約が入っているらしい。

空飛ぶ自動車の開発に成功した企業はこれまでもあった。が、量産に成功した企業はまだない。とすれば、まずまずのヒットだ。カーボンファイバーなどによる軽量化やCAD (コンピュータ援用設計システム) 導入による製造コストの軽減は無論だが、実は同機にはある際立った特徴がある。それは機体のサイズが翼を折りたためば全長5.9m、幅2.3mしかなくシェビー・トラック程度になり自宅の車庫で“駐車”出来る上、市販の無鉛ガソリンで走る(飛ぶ)。

さらに驚くべきは同社の販売戦略だ。この商品は軍や警察、“変わり者の金持ち”ではなく、駐機コストなど維持費削減に頭を抱えるパイロットを主な対象にしている。一見単なる夢の商品のようで、実は社会的ニーズに答えたものなのだが、実は聖書のゴスペルもこれと同じだ。

「ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです。」第一コリントへの手紙1章24節

とある。聖書は決して一部の特殊な人々の為に書かれたのでもなければ、単なる夢物語でもない。救いを必要とする全ての人々のニーズに答えることの出来る、「地に足の着いた」「動力」なのである。

2012-5-1

